

# 図画工作・美術の授業づくりスタンダード【題材構想の中で】

～造形的な見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びの授業ができているか～

東濃教育事務所

## 1. バランスよく指導することができる年間指導計画になっているか確認する

(小) 各内容及び材料・用具の系統性を踏まえ、「造形遊びをする活動」と、「絵や立体、工作に表す活動」のバランス

(中) 「感じ取ったことや考えたことなどを基に、絵や彫刻などに表現する活動」と「伝える、使うなど目的や機能を考え、デザインや工芸などに表現する活動」、「描く活動」と「つくる活動」のバランス

## 3. 児童生徒一人一人が自分の表したいもの（主題）を見付けることができるよう、題材との出会いを工夫する

(小) 感じたこと、想像したこと、見たこと、伝えたいことなどから、表したいことを見付けることができるようにする。

(中) 「感じ取ったことや考えたことなどを基に、絵や彫刻などに表現する活動」や「伝える、使うなど目的や機能を考え、デザインや工芸などに表現する活動」といった内容に応じて主題が設定できるようにする。

## 2. この題材で身に付けさせる資質・能力を明らかにする

- ・「関心・意欲・態度」「発想や構想の能力」「創造的な技能」「鑑賞の能力」の4観点で身に付けさせる資質・能力を明らかにする。
- ・題材の終末で求める具体的な児童生徒の姿を描く。

## 4. 対話的な学びの場（交流会、批評会）を設定する

- ・個人追求したのち、新たな表現やさらに深い表現を児童生徒が求める段階を予想し、交流会を行う。
- ・「工夫のポイント」や「主題にあった表現」といった鑑賞や交流の視点を与える。

## 5. 題材の終末をイメージする

- ・本題材で身に付けたい資質・能力を、作品だけでなく、終末の児童生徒の姿や発言、記述で具体的に描く。
- ・作品を見ながら振り返る場を設定する。

# 図画工作・美術の授業づくりスタンダード【1単位時間の授業で】

～造形的な見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びの授業ができているか～

東濃教育事務所

## 1. 本時の課題や自分の課題をつかむ

- (1) 「新しい表現や美しいもの、おもしろいものとの出会い」から「やってみたい」という憧れをもたせる
- (2) 「自らの思いや願いと表現とのずれ」から自分の課題や学習状況を判断させる

## 2. 課題解決のための具体的な見通しをもたせる

- (1) 表現（鑑賞）のポイント（造形的な視点）を示す
- (2) 表現方法（鑑賞の仕方）の具体を示範で示す

## 3. 児童・生徒が、自らの課題を解決するために、自分で選択し、試したり交流したりすることができる学習環境を設定する

- (1) 材料、用具、資料など
- (2) 自然な交流や学び合いが生まれる学習隊形や試す場など

## 4. 表現や造形的な見方を深める声掛けをする

教師の提示作品や資料、仲間の作品の表現（見方や考え方）とは異なる新たなアイデアで表現している（新たな見方で鑑賞している）よさを価値付け、紹介する

## 5. 表現（鑑賞）の深まりを確かめさせ、評価する

- (1) 前時までの表現（写真など）と本時終末での表現（作品）を比べながら、表現と表現から受けるイメージの変容を確認し、評価する
- (2) より深まった造形的な見方（鑑賞の仕方）を確認し、評価する